

# 結婚という新しい問題

永井暁子（日本女子大学人間社会学部）

結婚が当たり前の世の中  
ではなくなってきた

大学の講義において学生の関心をひくためにも用いるシヨッキングなデータがある。ちょうど今の大学生の年齢にあたる1990年生まれの女性の生涯未婚率は約四分の一、男性に至っては約3割という推計値である。ヨーロッパを中心とした他の先進諸国において、既存の法律婚ではなく型にはまらない新たなパートナー関係が育っていったのとは異なり、日本の未婚とは、多くの場合、実質的にもパートナーがいないことを意味している。

2005年国勢調査によれば、全国の男性25〜29歳の未婚率は71.4%、30〜34歳で47.1%、35〜39歳30.0%、女性25〜29歳59.0%、30〜34歳32.0%、35〜39歳18.4%である。釜石市の未婚率は、男性25〜29歳の未婚率は61.2%、30〜34歳で43.9%、35〜39歳34.3%、女性25〜29歳49.6%、30〜34歳28.2%、35〜39歳22.2%である。大学などへの進学に際して若者が市を離れることも関連して20歳代での未婚率は全国に比べて低いものの、30歳代後半までにはほぼ全国水準と同程

度になる。

私が若者であった当時、女性の結婚適齢期は25歳とされ、クリスマスケーキと同じで25歳を過ぎれば売れ残ると揶揄されていた。その25歳という区切りまでに結婚する者は、現代ではむしろ少数派である。

今回は、昨年10月号でご紹介した『釜石市民の住民意識に関する調査』（以下、市民意識調査）からみえる、地域移動からみた家族形成（結婚）の様子についてご紹介したい。

## 移動パターンと結婚の関係

10月号でもご紹介したように、現在、釜石に住んでいる方の地域移動のパターンをおおまかに「ずっと釜石」「Uターン」「転入」の3つに分類してみた。この移動パターン別に配偶状態をみてみると、20歳代から50歳代まで「転入」は「ずっと釜石」や「Uターン」に比べて有配偶率が高い（表1）。20歳代の「転入」の有配偶率は53.1%に対し、「ずっと釜石」は34.1%、

「Uターン」は23.5%である。30歳代での「転入」の有配偶率は82.4%に対し、「ずっと釜石」は74.1%、「Uターン」は66.0%である。未婚率が高いのは「Uターン」で、20歳代の未婚率は75.0%、「ずっと釜石」61.4%、「転入」46.9%である。30歳代での「Uターン」の未婚率は28.0%、「ずっと釜石」は14.8%、「転入」は17.6%である。14.8%、「転入」は17.6%である。

【表1】年齢別移動パターン別配偶状態

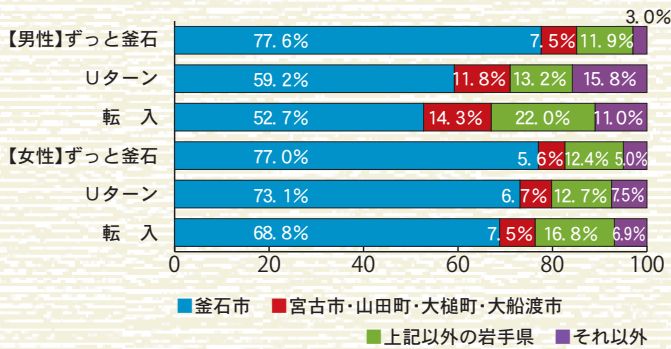
年代とパターン	未婚	離死別	有配偶	合計	
20-29歳	ずっと釜石	61.4%	4.5%	34.1%	100.0%
	Uターン	75.0%	1.5%	23.5%	100.0%
	転入	46.9%	0.0%	53.1%	100.0%
30-39歳	ずっと釜石	14.8%	11.1%	74.1%	100.0%
	Uターン	28.0%	6.0%	66.0%	100.0%
	転入	17.6%	0.0%	82.4%	100.0%
40-49歳	ずっと釜石	11.4%	11.4%	77.1%	100.0%
	Uターン	16.0%	4.0%	80.0%	100.0%
	転入	0.0%	4.9%	95.1%	100.0%
50-59歳	ずっと釜石	8.3%	5.0%	86.7%	100.0%
	Uターン	13.2%	7.0%	79.8%	100.0%
	転入	0.0%	7.8%	92.2%	100.0%
60-69歳	ずっと釜石	2.7%	3.5%	93.8%	100.0%
	Uターン	4.2%	5.2%	90.6%	100.0%
	転入	0.0%	4.7%	95.3%	100.0%
70-75歳	ずっと釜石	0.7%	6.4%	92.9%	100.0%
	Uターン	4.6%	9.2%	86.2%	100.0%
	転入	0.0%	8.8%	91.2%	100.0%

※標本数=1255

## 誰と結婚しているのか

次に誰と結婚しているのかをみてみよう(図1)。男女ともに「ずっと釜石」にいた場合、70%以上が釜石出身者と結婚している。女性は「Uターン」や「転入」の場合にも70%前後が釜石出身者と結婚しているが、男性は「Uターン」や「転入」の場合、釜石出身者との結婚は60%未満にとどまり、宮古市・山田町・大槌町・大船渡市出身者や、岩手県その他の地域の出身者、さらには県外の出身者との結婚が少なくない。

【図1】移動パターン別 現在の配偶者の出身地 (15歳時)



## 結婚相手との出会いは?

「婚活」という言葉を最近よく耳にする。昔と違って、現代の若者は自力で結婚相手を見つけなければならなくなったからだ。表2からわかるように、60歳代では21・9%、70歳代では25・3%がお見合いで現在の配偶者と出会っている。家族や親類の紹介を前述のお見合いと合わせると、60歳代では52・2%、70歳代では57・8%にのぼる。60歳以上の夫婦の半分以上はこうした親密なネットワークからパートナーをみつけていることになる。

現代の20歳代、30歳代は、そのようなネットワークからパートナーをみつけることは、ほとんどないといつてよい。どの年齢でも一定の割合を占めているのは、職場での出会いや職場の同僚や上司の紹介である。これらをあわせると、全体では26・2%を占める。また、知人・友人・幼なじみの紹介は、とくに20歳代で割合が高く36・2%で、全体でも25・2%を占める。

20歳代や30歳代、ひいては40歳代の夫婦に特徴的であるのは、学校での出会いで20歳代14・9%、30歳代

【表2】現在の配偶者と出会ったきっかけ

年代	親・兄弟の紹介	親類の紹介	知人・友人・幼なじみの紹介	職場の同僚・上司の紹介	職場で	学校で	アルバイト先で	趣味・習い事で	合コンで	お見合いで	インターネット・携帯で	街中や旅先で
20-29歳	0.0%	2.1%	36.2%	4.3%	19.1%	14.9%	2.1%	4.3%	6.4%	0.0%	10.6%	6.4%
30-39歳	1.1%	3.3%	26.4%	7.7%	29.7%	16.5%	2.2%	4.4%	2.2%	0.0%	4.4%	2.2%
40-49歳	5.2%	5.2%	30.2%	4.3%	20.7%	12.1%	3.4%	6.9%	2.6%	6.9%	0.0%	5.2%
50-59歳	4.7%	9.4%	27.1%	8.2%	20.0%	6.5%	1.2%	3.5%	0.6%	12.4%	0.0%	4.7%
60-69歳	11.4%	18.9%	21.1%	7.9%	15.4%	3.9%	2.2%	1.8%	0.4%	21.9%	0.0%	6.6%
70-75歳	15.6%	16.9%	22.8%	8.9%	15.6%	2.1%	0.8%	1.3%	0.0%	25.3%	0.0%	3.0%
全体	8.8%	12.3%	25.2%	7.5%	18.7%	6.9%	1.8%	3.0%	1.1%	15.6%	1.0%	4.6%

※標本数=889

16・5%、40歳代12・1%である。また、趣味・習い事、合コン、インターネット・携帯、街中や旅先といった「自力」で現在の配偶者と巡り合ったのは、20歳代27・7%、30歳代13・2%、40歳代14・7%である。

## 移動パターンとの関係

移動パターンと配偶者との出会ったきっかけとの間には、顕著な関連は見られなかった。つまり、出会いの種類が異なるということではなさそうである。「転入」で有配偶率が高かったのは、県内を移動する職に就いている人が多く含まれているということも考えられる。さほど広くはない範囲の中で移動を繰り返すことで、結婚のチャンスに恵まれたのかもしれない。「ずっと釜石」は20歳代では有配偶率が高いものの、「Uターン」と同様に、40歳代以降で未婚率が高い傾向にあり、出会いの機会が少ないのかもしれない。もちろん結婚は個人の志向によるものであるが、構造的に何らかの問題があるとすれば今後とも検討の余地がある。



プロフィール **ながい あきこ**

1965年生まれ。日本女子大学人間社会学部准教授。専攻は家族社会学、家族福祉政策論、女性福祉論。主な著書は『対等な夫婦は幸せか』、『バランスのとれた働き方』など。